

星の子 通信

～チーム星宮のみなさんへ～



H.30.11.22 No.13

文責 新井麻起

先生方の活躍ぶりや授業の様子、先生方へのメッセージを載せています。

本校では、学校研究課題として、主題「生きる力」を身に付けた児童の育成～「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善～に取り組んでいます。

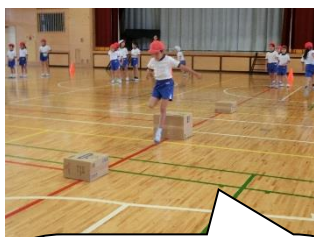
校内授業研究の3回目として、11月19日(月)に 安藤 由紀子教諭 田島 達也教諭 による1・2年の体育科の授業が公開されました。



1・2年 安藤 由紀子 教諭 田島 達也 教諭 教科 体育 単元名「走の運動遊び」

【前時のコースを跳ぶ】

ハードルを、楽しく跳んだり、跳びやすくするために、ハードルの並べ方等を工夫したり、リレーに勝つために、どのようにハードルを並べたらよいかを考えたりする授業です。



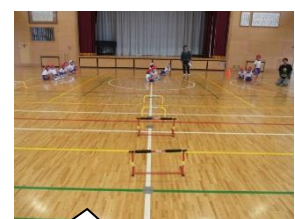
ダンボールを横に置いたり縦に置いたりして、高さや幅に応じた跳び方をしている。

【楽しく跳べる並べ方の工夫】



ミニハードルを同じ間隔に置き、大またで一またぎで跳ぶ時のリズムを楽しんでいる。

【他のグループのハードルを跳ぶ】



他のグループが並べたハードルも跳んでみる。

【リレーに向けてのハードルの並べ方の工夫】



リレーに向け、ハードルをどのように置いたら速く、飛びやすくなるか考えている。「高さはどうする?」「幅はどの位が一番跳びやすいかな」



ためしに跳んでみる。「2番目と3番目のハードルの間が狭くて跳びにくいな。」

【置き方の修正】



「じゃあ、もう少し離して置いてみる?」

【2回戦目に向けての作戦会議】



1回戦目で速かったグループの工夫を取り入れたりして、速く跳べるためのハードルの置き方を話し合っている。

【振り返り】



速く跳びやすいようにハードルの並べ方をどんな風に工夫したか、確認している。「1・2台目は高く跳んで、次は少し休むために低いのを置いた。」

【活用した要素】

- ☆課題提示の工夫
- ☆見通し
- ☆思考ツールの活用
- ☆発問の工夫(「なぜ?」「どうして?」自分の言葉で説明)
- ☆学び合いの工夫(6人×3グループ)
- ☆振り返り

【研究協議での意見】

- ☆「勝つために・目的に応じた」という課題提示が思考力を深めていた。
- ☆「跳びやすい?」や「近すぎても跳びにくい」等の言葉が聞こえ、ハードルを工夫して置こうとする姿があちこちで見られた。
- ☆グループ内でタイムをあげるには、という目的でもよかった。
- ☆活動の途中でも全体での意見交換と共有ができる場があってもよかった。